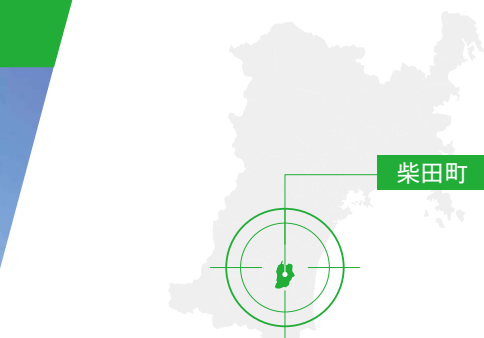




2025.9

柴田町

●面積:54.03km²
●人口:36,809人
(令和7年7月、推計人口)

仙台から電車で約30分。都市で仕事をしながら、豊かな自然の中で子どもを育てる快適な環境に恵まれた、咲き誇る四季折々の花と暮らしやすさが自慢の町。

写真:白石川堤の桜(筆者撮影)

1 概況 ～ 四季折々の「花のまち」 柴田町 ～

柴田町は宮城県南部、仙南地域に位置し、北西部は丘陵地帯、南東部の盆地に市街地が形成されています。町の市街地の中央を流れる白石川は東部で阿武隈川と合流して太平洋へと注いでいます。交通面では、町内にJR東北本線の船岡駅と槻木駅があり、仙台駅までは約30分とアクセスが良好のため仙台市の通勤圏にもなっています。さらに、槻木駅からは阿武隈急行が接続、町内に東船岡駅が設置されており、角田市や丸森町、福島県の伊達市や福島市方面へもスムーズに移動できます。町を縦断する国道4号線は、仙台市方面と白石市方面を結ぶ幹線道路として重要な役割を担っています。

柴田町は豊かな自然と観光資源に恵まれており、春には町花である桜が白石川堤や船岡城址公園を中心に咲き誇り、県内外から多くの来訪者を集める名所となっています。初夏には「しばた紫陽花まつり」、夏には「盆菊まつり」、秋には「しばた曼珠沙華まつり」、冬には「しばた柚子フェア」など、四季折々の花と地域文化を楽しめるイベントが開催されています。

2 基本情報 ～ 仙南地域で最多の人口を持つ町 ～

柴田町の面積は54.03km²で、県内35市町村中28位の広さです。人口は昭和から平成にかけて増加し、平成27(2015)年には39,525人を記録しましたが、令和2(2020)年頃から減少に転じました。令和7(2025)年7月時点の推計人口は36,809人で、県内では13位、仙南地域2市7町の中では最多の人口を有しています。また、県内の町の中で最も人口が多い状況です。

町内では、縄文時代の遺跡である上川名貝塚や深町貝塚などが発見されており、古代から人々がこの地に暮らしていたことがうかがえます。江戸時代には、現在の柴田町を構成する「船岡」と「槻木」がそれぞれ異なる役割を担っていました。船岡は、仙台藩重臣であった柴田家が居住した船岡城(船岡要害)を中心とした城下町として栄え、町名の由来にもなっています。一方、槻木は仙台藩の直轄地で、奥州街道の宿場町として交通と物流の要衝として発展しました。明治時代の町村制施行により船岡村と槻木村が誕生し、その後、それぞれ町制を施行して「船岡町」「槻木町」となりました。昭和31(1956)年に両町が合併し、現在の柴田町が誕生しました。

現在の柴田町は、交通の利便性や自然環境を活かしたまちづくりを進めながら、観光・教育・福祉など多様な分野で地域の魅力向上に取り組んでおり、持続可能な地域社会の実現に向けた施策が継続的に展開されています。

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計によると、柴田町の令和32(2050)年の人口は28,553人^[1](対令和2(2020)年比▲25.39%)と推計されています。同推計では、高齢者(65歳以上)人口は令和2(2020)年の11,099人(人口比率29.0%)から令和32(2050)年には11,415人(同40.0%)へ増加・上昇するとされています。一方、生産年齢(15～64歳)人口は令和2(2020)年の22,796人(人口比率

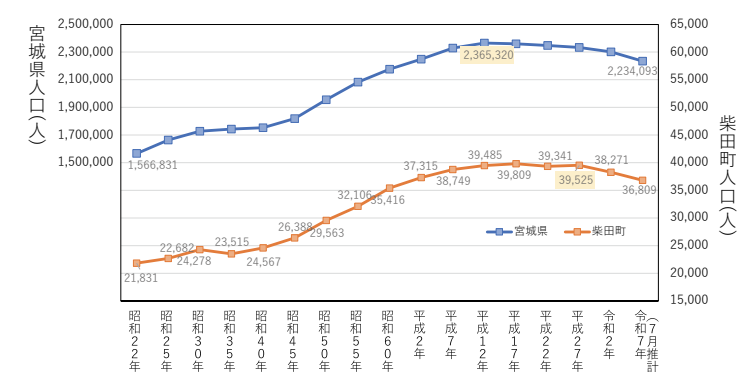
59.6%)から令和32(2050)年には14,769人(同51.7%)へと減少するとされ、人数は対令和2(2020)年比▲33.7%と推計されています。

人口減少の局面の中、柴田町では現在、令和元(2019)年度から令和8(2026)年度までの8年間を計画期間とする「第6次柴田町総合計画」に基づき、まちづくりが進められています。

同計画では、「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」(平成22(2010)年4月策定)の5つの基本理念①住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり、②住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が生かされるまちづくり、③先人が築いてきた文化、伝統等を大切にし、地域の個性を生かしたまちづくり、④多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり、⑤住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり)に基づき、将来のまちのあるべき姿(将来像)として「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」を掲げた基本構想が策定されています。また、時代の変化や町民のニーズに対応した柔軟な見直しが可能となるよう、4年間を計画期間として前期、後期の基本計画が策定されています。

後期基本計画(令和5(2023)年度～令和8(2026)年度)では、将来像の実現に向け、「歩いて楽しい緑豊かなクリエイティブタウンの創造」、「安全で安心な居ごこちの良いまちづくり」、「まちづくりを担う人材の育成と子どもたちの成長支援」、「花のまち柴田のブランド化による稼ぐ力の醸

図表1 宮城県と柴田町の人口推移



資料:総務省統計局「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

成」、「デジタル化による自治体イノベーションの推進」の5つが基本目標として設定されています。特に重点的に取り組む施策として、5つの重点プロジェクト(①歩いて楽しい街中賑わい創出プロジェクト、②逃げ遅れゼロ推進プロジェクト、③子ども子育てケアネット構築プロジェクト、④里山を基点とした移住・定住促進プロジェクト、⑤自治体DX戦略推進プロジェクト)を定め、各種施策が進められています。

前期基本計画(令和元(2019)年度～令和4(2022)年度)において、令和8(2026)年の目標人口を36,800人と設定しましたが、後期基本計画(令和5(2023)年度～令和8(2026)年度)では、令和8(2026)年は目標人口を1,300人程度下回る見込みであるとされ、人口減少への取組が益々重要となっています。

[1]国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が2023年12月に公表したデータによる。

3 産業の状況

(1) 町内総生産 ～ 製造業が突出して強い ～

令和4(2022)年度の柴田町の町内総生産額は1,505億円で、県内13位(人口一人当たりでは同10位)となっています。産業別(図表2)では、「製造業」が697億円で町内の総生産額の46.3%(製造業が総生産に占める割合は同4位)を占めています。産業別生産額の構成比を宮城県全体と比較すると、柴田町の産業は製造業に特化していることがうかがえます。「製造業」の他は、「公務」が宮城県の構成比を上回っていますが、それ以外の業種においては宮城県の構成比を下回っています。製造業の構成比が高いことから、その他の業種の構成比が相対的に低くなり、宮城県の構成比よりも下回る業種が

多いことが特徴といえます。

柴田町の最近11年間の町内総生産額の推移(図表3)を見ると、平成23(2011)年度から令和3(2021)年度までの第二次産業の生産額は、365億円～573億円と変動が大きく、令和4年度は758億円と大きく伸ばしました。一方、第三次産業は安定した推移を見せており、毎年700億円台を維持しています。令和4年度は744億円となり、前年から17億円の微増となりました。サービス業や小売業、医療・福祉分野などが含まれる第三次産業は、地域住民の生活に密接に関わる分野であり、長期的には人口動態や消費傾向の変化に左右されますが、こ

の間の柴田町では比較的安定した生産額で推移したことがわかります。

町内総生産額の業種別対前年度比の推移(図表4)を見ると、景気変動に左右されやすい「製造業」が対前年度比の変動幅が大きく、町内総生産額全体の増減に影響しています。町内総生産額は平成25年度に対前年

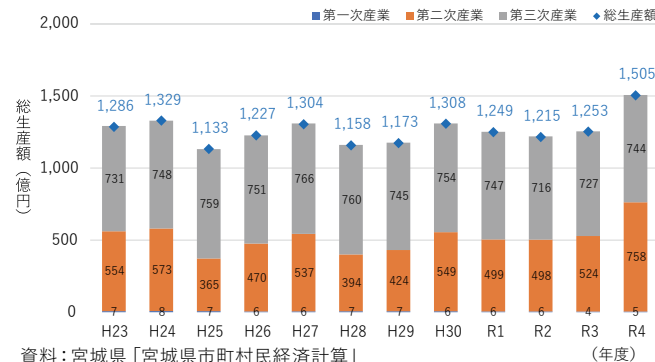
図表2 柴田町の産業別町内総生産額（令和4年度）

	実額（億円）		構成比（％）		
	柴田町	宮城県	柴田町 (a)	宮城県 (b)	(a-b)
第一次産業	5	1,392	0.3	1.4	-1.1
農業	5	811	0.3	0.8	-0.5
林業	0	66	0.0	0.1	-0.0
水産業	0	515	0.0	0.5	-0.5
第二次産業	758	20,717	50.4	21.5	28.8
鉱業	2	156	0.1	0.2	-0.0
製造業	697	14,749	46.3	15.3	31.0
建設業	59	5,812	3.9	6.0	-2.1
第三次産業	744	74,172	49.5	77.1	-27.7
電気・ガス・水道業・廃棄物処理業	25	2,151	1.6	2.2	-0.6
卸売・小売業	114	15,456	7.6	16.1	-8.5
運輸・郵便業	39	4,931	2.6	5.1	-2.6
宿泊・飲食サービス業	10	1,581	0.7	1.6	-1.0
情報通信業	21	2,948	1.4	3.1	-1.7
金融・保険業	20	3,337	1.4	3.5	-2.1
不動産業	149	11,982	9.9	12.5	-2.5
専門・科学技術、業務支援サービス業	59	9,188	3.9	9.6	-5.6
公務	132	5,823	8.8	6.1	2.7
教育	46	4,120	3.0	4.3	-1.3
保健衛生・社会事業	78	8,954	5.2	9.3	-4.1
その他のサービス	51	3,701	3.4	3.8	-0.5
総生産額	1,505	96,147	100.0	100.0	0.0

資料：宮城県「宮城県市町村経済計算」
(注) 税加除等により各業種の計と合計は一致しない

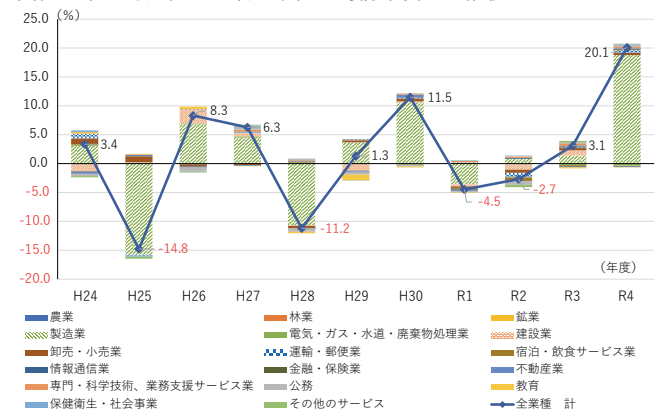
度比▲14.8%、平成28年度に対前年度比▲11.2%を記録したものの、11年間のうち連続でマイナスとなった年はコロナ禍を原因とする令和元～2年度にかけての2か年度のみとなっています。令和4年度は対前年度比が最も高く、20.1%増加となっています。

図表3 柴田町内総生産額の推移



資料：宮城県「宮城県市町村経済計算」
注：関税等の加除があるため各産業の計と総生産額は一致しない

図表4 柴田町内総生産額の業種別対前年度比の推移



資料：宮城県「宮城県市町村経済計算」

(2) 産業構造 ～ 製造業が牽引、公務や小売業のウェイトも高い ～

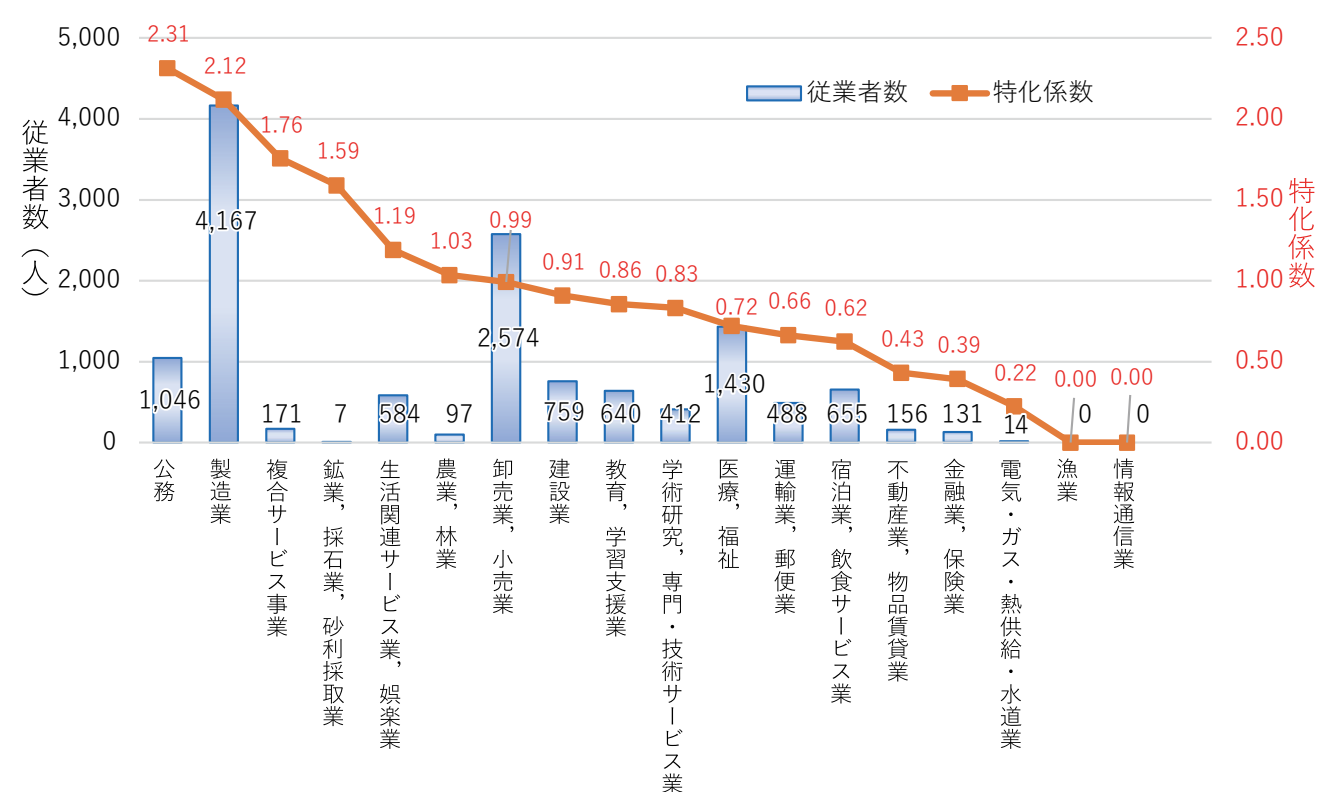
柴田町の産業構造を把握するため、従業者数による特化係数^[2]を算出し、産業別の従業者数(図表5)を併せて見ると、最も特化係数が高い業種(大分類)は「公務」の2.31となっています。

さらに業種を細分化し、主要な業種を表示した図表(図表6)を見ると、公務の中でも「国家公務」の特化係数が5.99と大分類の特化係数を押し上げていることがわかります。2番目に特化係数が高い業種(大分類)は「製造業」2.12となっており、従業者数は業種別で最も多い4,167人となっています。製造業の中でも「非鉄金属製造業」の特化係数が17.69、「業務用機械器具製造業」の特

化係数が16.86となっており、非常に高い特化係数を示しています。その他にも、製造業の中では「食料品製造業」「情報通信機械器具製造業」「窯業・土石製品製造業」等10業種が特化係数1を超えており、柴田町は各種の「製造業」が域外からの需要を取り込む「稼ぐ力」の強い産業といえます。

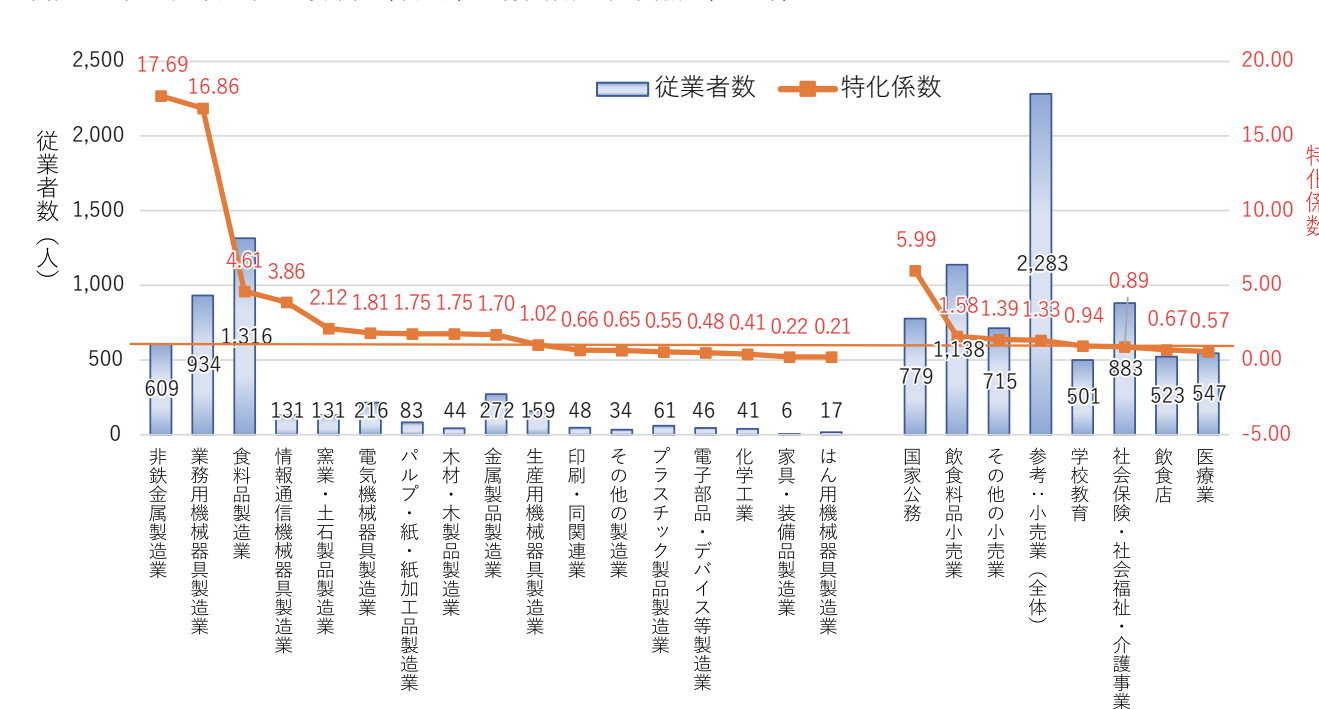
従業者数が2番目に多いのは「卸売業・小売業」で2,574人、特化係数は0.99と、域内外の需給がほぼ均衡している産業といえます。その中で「小売業」とりわけ「飲食料品小売業」は1,138人が従事し、特化係数も1.58と高く、域外需要の取り込みが見られます。

図表5 柴田町の業種別（大分類）特化係数と従業者数（2020年）



出所：令和3年経済センサス活動調査

図表6 柴田町の製造業・主要業種（中分類）の特化係数と従業者数（2020年）



出所：令和3年経済センサス活動調査（製造業は特化係数0.2以上、その他主要業種は従業者数500人以上を表示）

[2]特化係数とは、当該市町村における産業別の生産額や従業者数の割合を全国の同様の割合で除した指数のこと。この指数が1を超える産業は、域内での生産物やサービスの金額や量、従業者数が域外の平均値より多く、域外需要を取り込み域外からお金を「稼ぐ力の強い産業」とみることができます。反対に、指数が1を下回る産業は、域内需要が域外に流出し、域外にお金漏れ出る産業、つまり「稼ぐ力の弱い産業」とみることができます。

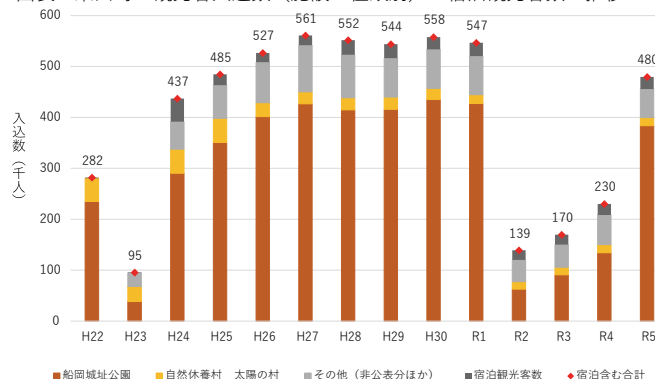
(3) 観光 ～ 観光客入込数はコロナ禍前までの回復を目指す ～

柴田町の観光客入込数と宿泊観光客数の推移(図表7)を見ると、東日本大震災が発災した平成23(2011)年とコロナ禍の影響により船岡城址公園の桜まつりが中止された令和2(2020)～4(2022)年は観光客数が大きく落ち込みましたが、令和5(2023)年はコロナ禍前の令和元(2019)年の87.7%まで回復しました。令和6年以降は、桜まつりも制限なしで開催されており、コロナ禍以前の水準への回復が期待されます。

一方、四半期別観光客入込比率(図表8)のとおり、桜まつりが開催される4～6月に観光客数が集中しており、他の季節の底上げが課題といえます。

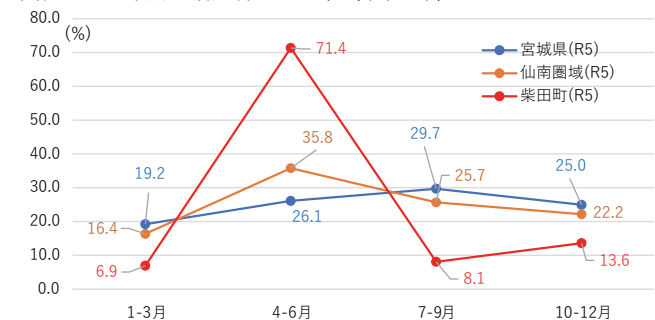
柴田町では、第6次総合計画の後期基本計画において、「歩いて楽しい街中賑わい創出プロジェクト」を重点施策の1つに掲げています。このプロジェクトは、園路の再整備による安全で快適な観光地づくり、ウォークブルな街並みの形成、交流ゾーンの整備、SNS映えする景観の発信など、観光資源の魅力向上に向けた取組となっています。

図表7 柴田町の観光客入込数(施設・種類別)と宿泊観光客数の推移



資料：宮城県「宮城県観光統計概要」

図表8 四半期別観光客入込比率(令和5年)



資料：宮城県「宮城県観光統計概要」

4 ふるさと納税 ～ 令和2年度と令和3年度に年間17億円超～

柴田町のふるさと納税受入額は、地域特産品の充実や返礼品の工夫を重ねることで年々増加し、令和2(2020)年度には対前年度比で約2.45倍となる約17億・寄付件数約9万7千件、令和3(2021)年度には過去最高となる約17億38百万円・寄付件数約9万4千件を記録し、両年度とも県内で2番目に多い受入額となりました。令和4年度からは減少に転じ、令和6年度は約5億44百万円・寄付件数約2万2千件となっています(図表9)。

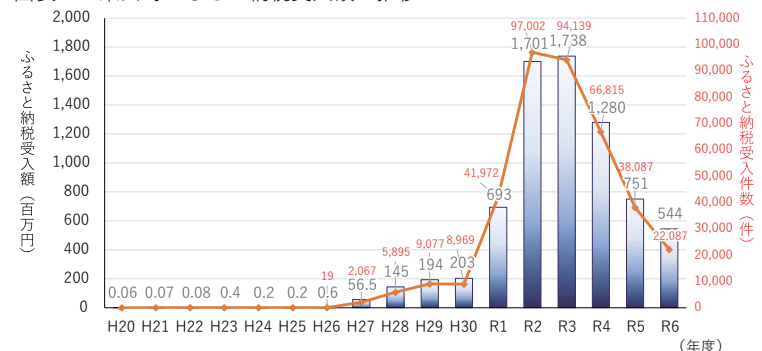
返礼品には地元レストランのピザ、地元の桜の倒木や間伐材のチップを活用した燻製ナッツ、牛タンやカレー、味噌、果実ジャム、工芸品、ゴルフブレーククーポン券など多彩な品を揃え、地域の魅力を全国に発信するツールとして機能しています。寄付金は福祉・教育・産業振興・生活環境整備など多方面に活用され、町の持続可能な発展に寄与していることから、今後、再び受入額が増加することが望まれます。

一方、企業版ふるさと納税については、「柴田町デジタル田園都市構想推進計画」に位置付けられた5つの重点事業①多様な働き方・仕事を

地域につくる事業、②子どもの未来や子育てのかたちを選択できる社会をつくる事業、③里山を基点に都市と農村間で人の流れをつくる事業、④歩いて楽しいガーデンシティを創造する事業、⑤快適で安全安心な住み良いまちの基盤を整備する事業)に活用されています。

令和6年1月には、企業版ふるさと納税の推進に関する契約を七十七銀行と締結し、民間企業の本制度の活用を促進するとともに、官民連携事業の創出等を通じた地方創生の推進を図ることとしています。

図表9 柴田町ふるさと納税受入額の推移



資料：総務省「ふるさと納税に関する現況調査」

船岡城址公園

柴田町にある船岡城址公園は、歴史と自然が調和した象徴的なスポットです。かつての船岡城跡に整備されたこの公園には、町の木である「もみの木」が藩政時代から今もお力強く立ち続けており、山本周五郎の歴史小説『樅ノ木は残った』にも登場することで知られています。この小説は、原田甲斐(宗輔)を主人公に伊達騒動(寛文事件)をテーマとした作品で、昭和45(1970)年には大河ドラマとしても放送され、全国的に注目を集めました。

船岡城址公園は白石川堤とともに「日本さくら名所100選」にも選ばれています。毎年開催される「しばた桜まつり」には県内外から多くの来訪者が訪れ、桜のトンネルを歩いて山頂へ向かうスロープカーは、観光客に人気の場所となっています。山頂には高さ24メートルの船岡平和観音像が立ち、蔵王連峰や太平洋を一望できる絶景スポットとして親しまれています。

また、初夏には紫陽花、秋には曼珠沙華、冬にはイルミネーションなど、四季折々の花々やイベントが楽しめる公園として、年間を通じて多くの人々に愛されています。

近年では周辺の橋や園路の整備も進められており、平成28(2016)年には船岡城址公園と白石川堤を結ぶ「しばた千桜橋」が完成し、翌年には「白石川千桜公園」も整備され、地域の魅力をさらに高める観光拠点として注目を集めています。



写真 柴田町観光物産協会

5 おわりに ～ 住む人が安全安心で居ごこちが良く、人を呼び込む「花のまち」へ～

柴田町が令和4(2022)年2月に実施した「まちづくりアンケート調査」(18歳以上の町民から抽出)では、町の住みやすさについて「住みやすい」(30.8%)、「どちらかといえば住みやすい」(42.5%)と回答、合わせて73.3%が住みやすさを感じています。まちの魅力については、「自然環境が豊かである」(52.1%)が最も高く、2番目が「買い物の便がよい」(34.2%)となっています。この回答順位は10代から70歳以上の全ての世代別で同じです。10～20代のまちの魅力の3番目は「魅力ある観光地がある」(22.3%)となっていますが、30代以上は「道路や鉄道など交通の利便が高い」(30～40代29.1%、50～60代31.8%、70歳以上30.4%)が3番目となっています。一方で、まちの不十分なところについては、「道路や鉄道など交通の便」(22.5%)が最も高く、10代～30代、50代の1番目となっています。将来(調査時点から4年後)のまちについては、「風水害や地震などの災害に強く、犯罪のない住環境が整備された安全安心なまち」(33.7%)の回答が最も多くなっています。これらを受け、柴田町では、第6次柴田町総合計画の後期基本計画において施策展開しています。重点プロジェクトの「逃げ遅れゼロ推進プロジェクト」は安全安心なまちづくりのた

めのプロジェクトで、基本目標の「安全で安心な居ごこちの良いまちづくり」でも地域防災・減災力の向上や交通安全・防犯対策の推進、地域公共交通の確保などを施策としています。また、移住定住や子育てにも力を入れており、重点プロジェクトの「子ども子育てケアネット構築プロジェクト」や「里山を基点とした移住・定住促進プロジェクト」を推進しています。交通に関しては、基本目標の「歩いて楽しい緑豊かなクリエイティブタウンの創造」において、「コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市整備」を掲げています。これは、槻木駅、船岡駅、船迫の各エリアと、新たな市街地の形成を目指す東船岡駅エリアの4つのエリアと農村部とを切れ目なくつなぐ施策となっており、コンパクトな都市機能集積エリア形成に向けた調査や検討を進めることとされています。

観光面では、船岡城址公園山頂のコミュニティガーデンへの植栽など、四季折々の景観を楽しめる環境づくりがされています。また、公園内のパブリックスペース整備も進められており、地域の魅力向上に寄与しています。

これらの取組を通じて、第6次柴田町総合計画における将来像「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」に向けたまちづくりの推進が期待されます。

(文責 七十七サーチ&コンサルティング 調査研究部 沼澤 知未)